

講義名	対)専門基礎演習(経)		
担当教員	羽森 直子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	演習
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

1年次の「気づきの教育」を経て模索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に取り組み上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業前に共通して身につけておくべき自らの責務・能力を身につけた人材(「スアカ」のひのけへこたれず)の精神をもった人材、知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材、創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材)となるための確かな基盤を築く。

**到達目標**

・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組み上で求められる、文書作成、プレゼンテーション等ができるようになる。  
 ・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの Word、PowerPoint、Excel 等の操作ができるようになる。  
 ・将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ(「研究演習」)を選択できるようにする。

\*オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。

**提出課題**

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第10回と第11回～第15回に区分される。  
 第1回は、ガイダンス・ゼミ紹介等を行う。第2回～第9回では、経済学部所属教員のうち「研究演習」(通称「ゼミ」)を開講する教員を訪ね(毎回訪ねる教員は異なる)、そのゼミについての説明を受け、その内容をきちんと理解したうえでゼミ選択できるようにする。第10回は、研究演習 第1次募集申込書提出状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。第1回～第10回では、毎回ワークシートの課題が課される。  
 第11回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

第1回～第10回のワークシートについては、担当教員による確認等を経て受講生に返却する。  
 第11回～第15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

**評価の基準**

第1回～第10回のワークシート 60%、第11回～第15回の課題 40%の割合で評価する。

**履修にあたっての注意・助言他**

この科目の到達目標達成のために、毎回出席し、課題を提出すること、RYUKA Portal の講義連絡やメールなどをこまめに確認し、指示に従うこと。

教科書				
.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

資料は、必要に応じて演習中に配布する(事前にRYUKA Portal の講義連絡で配信することもある。その場合、ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること)。参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

**授業計画**

1. 専門基礎演習の運営方針説明、自己紹介等
2. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
3. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
4. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
5. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
6. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
7. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
8. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
9. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
10. 研究演習 第1次募集申込書提出状況の確認、ゼミ選択の交流
11. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
12. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
13. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
14. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習
15. 汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図るための演習

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

研究演習の説明を受けるにあたっては、事前にそれぞれのシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。毎回の課題に取り組み、学習内容を身に付けること。担当教員の指示にしたがって必要な予習を行うこと。以上をつづけて、1回の演習につき4時間程度の事前・事後学習が必要となる(研究演習 第1次募集申込書の作成の時間なども含む)。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この科目は学部共通科目の特別研究に位置づけられており、そのカリキュラム・ポリシーのうち、「専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目」の土台づくりを行う。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについてコメントする。また、学生の発表や学生間の議論を実施する。

**実務経験の有無及び活用**

なし。

**備考**